

県老連創立60周年に

寄せて



兵庫県老人クラブ連合会
会長 中村 美津子

方も、今ではご自分のことを高齢者と思われている方は少ないでしょう。

2点目は、「就労年齢の上昇」が挙げられます。戦後かなりの期間は、企業等の定年は55歳が一般的でしたが、現在は、65歳が当たり前で、令和3年4月からは70歳までが努力義務になるうとしているため、やはり就労しながらの老人クラブ活動は難しいと思われ

3点目は、昨今、特に顕著な風潮として、「面倒なことには関わり合いたくない、特に役員にはなりたくない」という意識が強いせいと思われ

このほかにも、集団の煩わしさ・拘束を嫌う風潮(集団より個人を優先する)や、SNSなどの普及により、老人クラブに加入しな

くとも他の人々と交流することが可能になったこと等が挙げられるでしょう。しかし、私たちは、自信

を持つて主張することができません。

私たち高齢者の一番の願いは「健康長寿」です。

単に長生きをするだけでなく、いかに「健康寿命」(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)を伸ばすかが、切実な問題になっていきます。

そして、「健康長寿」以上に大切なこと、それは、『毎日を幸せに過ごすこと』です。

もちろん、人それぞれに価値観や考え方が異なりますが、私は、『朝、気持ち良く目覚め、美味しくご飯をいただき、家族や気の合う仲間のみなさんとおしゃべりし、笑い合い、一緒に様々な活動を行って、気持ちよくぐっすりと眠ることができる。』これに尽きるのではないかと考えています。

高齢者にとって、『健康』と『仲間との交流』こそが、不可欠の重要なキーワードになります。

この2つを簡単に満たすことができる最も身近な方法は、老人クラブへの加入です。

また、老人クラブの会員が増えない大きな原因のひとつとして、「老人クラブ活動が知られていない。」こと

が指摘されています。

私たちは、このご意見を謙虚に受け止め、ひとりでも多くの皆様に、私たちが日々実感している「幸せ」をお伝えしたいと切に願っており、今後も、身近な方々へ声かけを、着実に続けてまいります。

今、我が国のみならず、全世界が、新型コロナウイルスと共存する生活のあり方を問われています。

私たち高齢者は、これまでの人生の中で、数多くの苦しみ・悲しみ・痛みを経験しながらも、その一つひとつを克服し、今日、毎日を笑って過ごすことが出来ています。

私たち老人クラブの活動にとつて、『人とのふれあい』こそがすべてです。

人と人のふれあいを通して、仲間づくり・健康づくり・生きがいづくりに勤しみ、充実した毎日を過ごすことができたいますが、人との交流がしたくともできない現状は、老人クラブ活動にとつて、本当に大きな試練のときです。

しかし、見方を変えれば、この大変な時にこそ、改めて、老人クラブ活動の意義や本当の良さ・楽しさを見つめ直し実感する好機と捉

えることもできると考えています。

私たちは、行動の適切な自制を通してこの非常に困難な状況を克服し、これまでどおりの、誰もが好きな時に、好きなことを一緒に楽しむことができる日々を回復していきます。

新型コロナウイルスの感染予防に十分留意しながら、一日も早く、コロナの時代にふさわしい『老人クラブ活動のあり方』を皆さんと一緒に作り上げてまいります。

私たち老人クラブは、諸先輩の努力の結果、60年も及ぶ組織を受け継いでいます。

急速に進む少子高齢化の流れにあつて、高齢者が有する豊富な知識・経験を活かして地域の諸団体と協働し、地域を豊かにする社会活動に積極的に取り組んでまいります。

さあ、老人クラブの仲間と一緒に、「楽しくなる・夢中になる・笑顔になる」を活動スローガンに、笑顔をいっぱい浮かべ思いっきり、おしゃべりやスポーツ、様々なイベントを一緒に楽しんで、健康で幸せな毎日の生活を過ごしましょう!!

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています
